

産地を担う多様な経営体の育成

鹿行農林事務所 経営・普及部門

鹿行農林事務所経営・普及部門では関係機関と連携し、高齢化や担い手不足が深刻化する中で産地を担う多様な経営体を育成確保するために様々な取り組みを行っています。平成 28 年度は、①個別経営体への法人化推進、②地域リーダーの育成、③定年者等によるボランティア援農支援について、重点的に取り組みました。

個別経営体への法人化推進

今後、地域の農業を維持・発展させていくためには、中核となる農業者の規模拡大を推進していく必要があります。そのため、家族経営の発展段階として、法人経営への移行を志向する農家を対象に、法人後の税務管理や労務管理について理解を深める研修会を開催し、個別経営体の法人化を推進しました(写真1)。



写真1 法人化に関する研修会



写真2 鉾田市4Hクラブ設立総会

鉾田市4Hクラブが誕生

地域農業のリーダーとして活躍できる人材の育成を目指し、自主的なクラブ活動をとおした仲間づくりやプロジェクト活動を支援してきました。その中で、平成 28 年 12 月に鉾田市在住の 30 歳以下の農業後継者を構成員とする「鉾田市4Hクラブ」が誕生しました(写真2)。

当部門ではクラブ活動をとおして、仲間づくりや農業技術の習得を進め、地域農業の発展に貢献できる農業者を育成していきます。

定年者等によるボランティア農業支援

鹿嶋市では、企業退職者等の市民 11 名が自らも農作業を楽しみつつ、地元農家を応援したいという想いのもと、農繁期に地元農家の農作業を手伝う援農ボランティア活動に取り組んでいます(写真3)。

しかし、援農ボランティアの活動を活性化させる上で受入農家との日程調整が上手くいかず、すれ違いが多いことが問題をなっていました。

そこで、1 カ月分の予定を立てる「活動打合せ会」を提案し、5 回開催することが出来ました。これによりスムーズな日程調整ができるようになりました。



写真3 援農ボランティアによるレタスの定植